

みそぎがわ 御祓川ふるさとの川整備事業

受賞機関 石川県七尾土木事務所

事業の概要・特徴及び成果

御祓川の河口部周辺は、七尾市の中心市街地であり、城下町のたたずまいを色濃く残した商業地区で、古くから市民の心の拠り所として親しまれ、青柏祭を始めとした催事やイベントの舞台となっている。

しかし、この一帯は軟弱地盤であり、橋梁は沈下が著しく、護岸も亀裂や漏水など老朽化が進み、景観を悪化させるとともに、治水上危険な状況であった。このため、平成9年度に「ふるさとの川整備事業」の指定を受け、平成11年度から護岸や橋梁の整備を行うこととした。

・事業(施策)実施期間 平成11年4月1日～15年3月
(一部完成)

・事業費(工事費) 704百万円

また、御祓川と平行する県道は、駅前再開発を進めているJR七尾駅と観光施設「食祭市場」のある七尾港を結ぶ都市計画道路であり、シンボルロードとして河川、橋梁、街路と街並みが一体となった魅力的な都市空間を創出することとなり、七尾都心軸まちづくり協議会が平成10年に発足した。

ふるさとの川整備の基本テーマは「歴史と祭り、新たな街並みを活かす川づくり」であり、長生橋を含む3橋梁の架替えをまちづくり景観の主要ポイントとして市民自由参加型のワーキング会議を1年半にわたり毎月開催し、現場サンプル展示(ワークショップ)も行いながらデザイン協議を重ね、地域の伝統や文化を取り入れた、特徴のある橋梁設計を行った(長生橋「かおりの橋」、泰平橋「あかりの橋」、



ワーキング会議

慶応橋「かざりの橋」)。

新しく架替えられた橋梁付近は、地元で600年前から伝わる「青柏祭」や「港まつり」のメイン会場となることから、橋上が舞台や観覧席となり、夜には橋上の燭台に和ローソクが灯され、香台にお香が焚かれて“祭り”の雰囲気盛り上がり市民から高く評価されている。また、工事完成とともに、ボランティア団体や高校の生徒達が水質浄化活動など、御祓川の再生に向けた活発な取り組みを行っている。

長生橋については、日本で最初のプレストレストコンクリート橋で、当時の地元工業高校が、土木の野外実習の教材としていたことから、土木技術の歴史的原点と今後の発展継承の観点で、現況をできる限り残して保存することになり、七尾市街地の南東に位置する「希望の丘公園」で、せせらぎ水路の歩道橋として移転・復元された。大勢の市民に利用されるとともに、土木遺産の教育・啓蒙の看板を設置したことで、関係者からも高く評価されている。



建設時の長生橋



希望の丘公園移設後の長生橋

賛助会員 (株)ピーエス三菱